Save the Children

セーブ・ザ・チルドレン ニュースレター
April 2017 No.70



特集

紛争の中を生きる子どもたち

© Simine Alam/Save the Children

6,500万人―。今世界では、日本の人口の約半分にあたる数の人々が、紛争などにより家を追われて過ごしています。シリア危機の長期化により、この数字は第二次世界大戦以降で最多を記録しました。難民の半分以上は、子どもです。皆さまのご支援のもとセーブ・ザ・チルドレンが行っている、紛争下の子どもたちへの活動をお伝えします。


© Anna Pantelia/Save the Children

特集 紛争の中を生きる子どもたち

世界では1分に24人が

紛争や迫害のために避難を余儀なくされています。*1

世界の子どもの9人に1人が

紛争地帯で暮らしています。*2

セーブ・ザ・チルドレンはシリア国内で

これまでに240万人(うち子ども150万人)に支援を届けました。

*1: UNHCR Global Trends 2015 *2: UNICEF Humanitarian Action for Children 2016


© Gabriele François Casini/Save the Children
難民を乗せた船へ救助に向かう


© Jonathan Hyams/Save the Children
漂流する船から子どもを救い出すスタッフ

岸辺の丘に見渡す限り広がっているのは、脱ぎ捨てられた救命ジャケット。ここは、地中海に面したヨーロッパの島の沿岸です。これらの救命ジャケットは、紛争や迫害、そして極度の貧困から逃れるため、中東やアフリカの祖国から命をかけて地中海を渡ってきた、移民・難民の人々が身に着けていたものです。

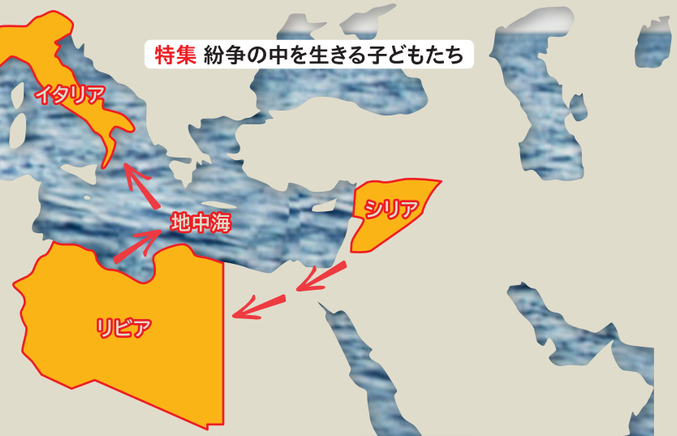
紛争が続くシリアから逃れてきた、ある父親は話します。

「シリアでは、病気を抱える5歳の娘・アミナの薬も買えないまま、餓死するのを待つしかありませんでした。私たちは娘の病気を治すため、命をかけてヨーロッパへの密航船に乗ることを選びました。これからどこに行くの？と聞く子どもには、海に旅行に行くんだよ、と答えました。定員をはるかに超えた300人近くがゴムボートに乗せられ、高波の海へ出航しました。しかし、数時間後にボートのエンジンは停止。大きな波に飲まれそうになりながら、海上を10時間近く漂いました。もうこれで命が終わりだと思ったころ、セーブ・ザ・チルドレンの救助船が見えたのです。船が近づき、優しい顔の救助スタッフが手を差し伸べてきました。私は嬉しくて泣きながら子どもを抱き締めました。娘は無事に病院へ行けました。本当にありがとう。それ以外の言葉がありません。これから働いてお金を稼ぎ、子どもたちに良い教育を受けさせたい。子どもたちには安全な人生を歩んでほしいと願っています。朝出かける時に、今日は生きて帰って来られるだろうかと、心配しなくていい毎日を過ごしてほしいのです。」

次ページ：アミナさん一家の避難の道のり


© Jonathan Hyams/Save the Children

シリア難民少女アミナさん（5歳）の避難の道のりとセーブ・ザ・チルドレンの支援





紛争状態が続くシリア。

激しい空爆で、死と隣り合わせの毎日。食料もなく、ぜん息のアミナさんの薬も買えず衰弱する一方に。

シリア国内の紛争地域で、医療施設や産科医院の支援や、臨時の学習スペースを運営。また、国内避難民に水や食料、衛生用品の配布も行っています。これまでにシリア国内で150万人以上の子どもに支援を届けました。


© Save the Children

難民となってリビアへ逃れる。

戦火のシリアから避難。一家は親戚がいるリビアを目指して危険な道を進みました。

シリア周辺国では、到着した難民へ、栄養ある食料や毛布などの物資を提供。また、子どもたちが安心・安全に過ごせる空間「こどもひろば」を運営するほか、公的な教育や医療が受けられるようサポートしています。


© Ahmad Baroudi/Save the Children

危険なボートで地中海を渡る。

安全と医療、仕事、教育を求め、ヨーロッパへ向かうことを決意。しかしボートは海上で漂流。

地中海で、約300人を収容できる捜索救助船を運航し、海上で難民・移民を救助。安全な船に乗せて食料や水などを提供するほか、子どもの心のケアを行う専門スタッフが船に同乗し対応に当たっています。


©Jonathan Hyams/Save the Children


©Louis Leeson/Save the Children

イタリアへ運ばれ医療支援を受ける。

セーブ・ザ・チルドレンの船に救助され、命をつなぎとめたアミナさん。無事に病院に運ばれました。

船が到着するイタリア・シチリア島では、上陸の手続きを手伝うほか、医療が必要な子どもを病院に搬送。また特に、大人の付き添いのない子どもが搾取や虐待から守られ、必要な支援が受けられるよう活動しています。


©Jonathan Hyams/Save the Children

※プライバシー保護の観点から、アミナさん（仮名）他の実体験を基に編集しています。

6年目を迎えたシリア危機

子どもたちのメンタルヘルスへの影響が深刻に。

2011年3月にシリアで内戦が勃発してから6年。490万人（うち子ども230万人）が難民となって国外に避難する一方で、子ども580万人を含む1,350万人が国内で支援を必要としています。セーブ・ザ・チルドレンは、国内に留まる子どもたちのメンタルヘルスに関する調査を実施。砲撃や空爆などの恐怖や不安にさらされた子どもたちに、ストレス反応のうち最も危険なものとされる「毒性ストレス」の兆候がみられることが明らかになりました。


© Save the Children

大人の **84%** と、子どものほぼ全員が、日常的な爆撃や砲撃が、最大のストレス要因だと答えました。



「子どもは戦闘機やロケットの音を恐れて、椅子やドアの音にすら反応してしまうのです。
ー現場スタッフのアハメド

子どもの **50%** が、学校にいて安全だと感じることは全く、もしくはほとんどないと答えました。



「学校に行くのが怖い、なぜなら空爆されるかもしれないから
ーアレッポ郊外在住リハブさん

大人の **48%** が、紛争が始まって以降、言語障害や言葉を発せなくなった子どもを見たことがあると答えました。



「子どもは、大きなストレスに直面すると話すことができなくなり、叫び続けるだけになってしまうこともあります。
ーシリア南部で活動する心理カウンセラーアミラさん

大人の **59%** が、武装勢力に徹用された子どもや青少年のことを知っていると答えました。



「15歳に満たない子どもが検問所で銃を持ち、武装勢力に加わっているのを目にします。
ーイドリブで人道支援に従事しているタマラさん

セーブ・ザ・チルドレンはシリア国内の10県で、絵や音楽などの芸術を通じた癒しと教育のプログラムをはじめとした、メンタルヘルスおよび心理社会的支援を行っています。（写真：シリア北東部の避難民キャンプの「こどもひろば」で絵を描く少年）



世界各地の紛争地で子どもたちに寄り添う



イラク　— モスル奪還作戦のもと人々は —

状況　2016年末から、過激派組織ISが支配するイラク第2の都市モスルの奪還に向けてイラク軍が軍事作戦を開始したことに伴い、大量の避難民が周辺地域や隣国シリアへ流出しています。

活動　子どもやその家族の避難先で、水や食料などの物資を提供。緊急下の心理的応急処置を行う子ども保護チームを派遣するほか、「こどもひろば」の運営を行っています。



イエメン　— 人口の約7割が人道危機に直面 —

状況　中東の最貧国の一つであるイエメン。2015年から紛争が激化し、インフラの破壊や貧困、食料危機が進行。人口の69%にあたる1,880万人が、人道支援を必要とする事態に陥っています。

活動　特に保健医療面では、国内60ヶ所の保健医療施設に必要な機器、医薬品やトレーニングを提供するとともに、緊急栄養治療を行う移動医療チームを派遣しています。



南スーダン　— 国内対立で大量の難民が発生 —

状況　2011年に独立を果たしたものの、不安定な状態が続く南スーダン。2016年の戦闘の激化により状況はさらに深刻化し、人口の1割以上の150万人が近隣国に逃れています。

活動　食料支援、物資配布に加え、子どもの保護や教育の機会の提供など、南スーダン国内外で緊急人道支援を実施。隣国ウガンダでは日本人スタッフが駐在し、難民の子どもを支援しています。



ミャンマー　— 紛争の影響が残る地域で安全を守る —

状況　長年にわたった内戦の影響が残るとともに、一部では戦闘が続いているミャンマー。紛争で傷ついた社会において、子どもたちが安心・安全に暮らせる環境が必要です。

活動　育児放棄や暴力・搾取などの被害を受けた子どもたちに対して、心のケアや教育・医療支援などを提供。住民自身が子どもを守るしくみづくりにも協力しています。

どうしたら紛争をなくせるのか

その問いに向き合い続けてー

紛争予防の第一歩は

どうしたら紛争を防げるのか？セーブ・ザ・チルドレンは100年近い活動の歴史の中で、常にこの問いに向き合い続けてきました。セーブ・ザ・チルドレンの創始者エグランタイン・ジェブは、第一次大戦後、当時多くの批判を受けながらも、敵・味方の分け隔てなく傷ついた子どもに支援の手を差し伸べました。そして、すべての子どもが享受すべき権利を訴え、それが後の子どもの権利条約となりました。すべての人が等しく持つ権利を互いに尊重し合うことが、紛争予防の第一歩と言えるでしょう。

根本的な解決を目指して

多くの紛争の根本的な要因には、差別、不寛容、貧困、格差といった、子どもたちが育つ社会を取り巻く課題があります。セーブ・ザ・チルドレンが世界中で実施している教育、保健、子どもの保護、貧困削減などの活動は、子どもたちが差別されることなく、質の高い基礎社会サービスを受け、暴力や搾取から守られ、健やかに成長する環境を整えることにより、紛争予防への長期的効果をもたらします。紛争下の状況でも、例えば難民の若者が受け入れ地域の若者や社会とのつながりを強め、職業スキルを学ぶなど、融和や相互理解を視野に入れた活動を世界各地で実施しています。

多様性を受け入れる社会に

さらにセーブ・ザ・チルドレンは、現場の活動のみならず、差別や格差の構造を変えるアドボカシー活動にも力を入れています。2015年9月に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）では、「人や国の不平等をなくす」という目標や、「誰ひとり取り残さない」ための実効策が確実に入るよう、各国政府に働きかけました。また、紛争下でも子どもの教育や保護の権利が守られるよう、2016年9月の難民・移民に関する国連サミットでは、紛争などで故郷を離れることを余儀なくされた子どもの教育や保護の保障がサミットの成果文書に盛り込まれるように働きかけました。こうした地道で息の長い活動が、多様性を受容し、互いの権利を尊重する平和な社会を築く礎になるという信念を持って、活動を続けていきます。

写真：ヨルダンの難民キャンプで暮らす子どもたち © Chris de Bode/Save the Children



熊本地震から1年
復興の歩みを支え続ける

18,141人に届いた支援

2016年4月に熊本県で震度7の地震が発生してから1年。皆さまのご寄付のもと行ってきた緊急・復興支援を通して、これまでに18,141人に支援を届けることができました。(2017年2月末時点)

経済的にダメージを受けた世帯の子どもを支える

この地震で損壊した家屋は、18万棟以上。「家の修理や家財の買い替えで出費が大きく、子どもの費用の捻出に苦労しています」という声が保護者から聞かれました。災害は、家計にダメージをもたらし、子どもの生活にも多くの影響を与えます。震災による家庭の経済的状況が、子どもたちの学校生活や文化・スポーツ活動、進路に影響を与えないように一。セーブ・ザ・チルドレンは、被災状況や経済的困窮といった一定の条件を満たす子どもを対象に、給付金の提供を実施。修学旅行や高校卒業時など特に出費の多い時期に合わせ、のべ600人以上に5～6万円の給付金を提供しました。

広がる関心 “緊急時の子どもの心のケア”

熊本地震では、災害時の子どもの心のケアが大きく注目されました。セーブ・ザ・チルドレンはその先駆けとして、「子どものための心理的応急処置」の実践と啓発に取り組んできました。これは、ストレスを抱えた子どもの心を傷つけず適切に対応することを目的に、セーブ・ザ・チルドレンが開発した、誰もができる子どもの心の応急手当です。今、この研修が各地の自治体へと広がっています。今後起きるかもしれない災害において、子どもたちへの影響を少しでも小さくするために。熊本の経験が、全国に活かされようとしています。

熊本地震被害概要(2017年2月熊本県発表)

- 前震 ／ 2016年 4月14日　本震 ／ 4月16日
- 最大震度 ／ 7
- 余震 ／ 4,235回 以上
- 死者数 ／ 193人 (関連死含む)
- 避難者数 ／ 18.4万人 (県人口の10.3%)
- 住宅被害 ／ 全壊：8,399棟　半壊：32,958棟
  一部破損：142,890棟

主な支援内容

- 緊急支援物資提供、避難所での「こどもひろば」の開設・運営
- 学校給食への支援、学用品・給付金などの提供
- 学童保育・保育所などへの支援
- 復興におけるおける子ども参加の機会づくり
- 防災用品の提供や防災研修の実施　ほか







その広告は、子どもたちへの影響を考えていますか？

「子どもに影響のある広告およびマーケティングに関するガイドライン」が完成

世の中にあふれている色とりどりの広告が、子どもにもたらす影響について考えたことがあるでしょうか？日本では、広告は比較的好意的に受け入れられ、その情報や表現が子どもに及ぼす影響については、あまり問題視されてきませんでした。しかし、広告が子どもの消費傾向のみならず、自尊心や価値観にまで影響を及ぼすことは、海外のさまざまな研究で検証されています。子どもは、情報の性質を理解して判断を下すための能力を養う発達途上にあり、見るもの、聞くものをそのまま受け入れる傾向があります。そのため、テレビ番組とCMの区別がつかないなど、大人よりも情報に影響されやすい特性があります。そのため、例えば、カナダのケベック州やスウェーデンやノルウェーなど諸外国では、「12歳以下の子どもを対象とした広告は禁止」などの規制が設けられています。

こうした状況を背景に、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの呼びかけで、NGOや企業、有識者、関連機関などから構成される「子どもの権利とマーケティング・広告検討委員会」を発足。2016年10月に、企業の広告やマーケティングにおいて子どもに対する影響への認識と配慮を促すことを目的とした「子どもに影響のある広告およびマーケティングに関するガイドライン」を完成させました。ガイドラインは強制力を持つものではありませんが、子ども向け商品・サービスの広告やマーケティングを行う場合はもちろん、すべての企業があらゆる広告やマーケティングを行う際に、子どもに及ぼす影響、ひいてはより広く人権の尊重・推進という観点からそのあり方を見直す指針となることを目指しています。

ガイドラインより抜粋要約

■ 番組や記事と広告の明確な区別
- 子どもに番組や記事と広告とは別のものであることを理解させるよう努める。
- 番組や記事の中にあらかじめ特定の商品を組み込み推奨する手法においては、番組や記事と商品の推奨が別のものであることを子どもが理解できるよう、表現や構成に配慮する。

■ キャラクター、専門家、有名人などが推奨する場合の留意点
- 子どもに人気のあるタレントやキャラクターを広告に登場させて商品を推奨する場合は、商品の性能や品質について子どもに過大な期待を抱かせ、誤解させることのないよう配慮する。

PARTNERSHIP INFORMATION

Interview

いのちに携わる企業として、グローバルな保健医療課題に取り組む。

武田薬品工業株式会社



コーポレート・コミュニケーションズ&パブリックアフェアーズ CSR 主席部員
城戸 浩史 様

230年以上にわたって人々の健康に関わる

弊社は江戸時代の1781年に創業して以来、230年以上にわたって人のいのちに携わる製薬業に取り組んできました。そのため、CSR*の一環である企業市民活動では、経験と知見を活かせる保健医療の分野を中心に活動することを基本原則にしています。

全従業員の投票で選ばれたセーブ・ザ・チルドレンのプログラム

私たちのCSR活動は、全ての従業員が参加することが大きな特徴の一つです。「途上国・新興国の人々の健康に貢献する予防活動」というテーマを掲げた2016年の「グローバルCSRプログラム」では、世界約70ヶ国3万人の全従業員の投票で実施プログラムを選定しました。この結果、セーブ・ザ・チルドレンの「少数民族の母子を対象にした保健支援プログラム」がその一つに選ばれたのです。グローバルなNGOとして信頼があったことに加え、社会で弱い立場に置かれている「少数民族の母子」に光を当てたことに関心を持った従業員が多かったことが、選定された要因だと考えています。

SDGsの達成を目指して



2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」。製薬企業である私たちのCSR活動は、SDGsの3番目の目標「すべての人に健康と福祉を」につながっています。セーブ・ザ・チルドレンをはじめとしたさまざまな団体とのパートナーシップを活かして、持続可能な社会の実現に貢献していきたいと思います。

*CSR(Corporate Social Responsibility)：企業の社会的責任

Information

大和証券
Daiwa Securities

ポイントプログラムを通して、日本の子どもたちを支援。

大和証券株式会社には、お客さまの取引実績に応じて貯まる「交換ポイント」を寄付としても交換できる「ダイワのポイントプログラム」を通じてご支援いただいています。ご寄付は、日本国内で実施している「子どもの貧困問題解決」、および「子ども虐待の予防」の活動に役立てられています。

uniserv
株式会社 魚国総本社

ベトナムの子どもたちに、おいしいをもっと。すこやかをずっと。



社員食堂や学校での給食事業を手掛ける株式会社魚国総本社には、創業100年の2014年より、ベトナムでの少数民族の栄養改善事業をご支援いただいています。食を通じて、健康を守り暮らしを豊かにしたい、という思いで集められた従業員の皆さまと企業からのご寄付は、子どもたちの栄養改善に役立てられています。

株式会社 オリエンタルランド

「食」を通じて、子どもたちの栄養改善を支援。

OLCグループ
こどもスマイル基金

東京ディズニーリゾートの運営者である株式会社オリエンタルランドは、従業員寄付と同額の会社からのマッチング寄付を合わせ、子どもスマイル基金を運営しています。多くの従業員のご厚意によりこの基金からご寄付をいただき、モンゴルの遠隔地で暮らす子どもたちへの教育事業に役立てられています。

スタッフの一日 モンゴル駐在員 岡本 啓史



モンゴルの首都で、新入生、特に幼稚園経験のない子どもが小学校に適応できるよう、学校体制を強化する支援を担当しています。

モンゴルってどんな所？

中国とロシアに囲まれた内陸国で、冬はマイナス30度以下の寒さ。国民の約3割が牧畜で生計を立てていますが、寒雪害などで遊牧生活が立ち行かなくなり、首都に流入する人が増え、大気汚染などが社会問題に。



出勤 08:30

サエンバエノー！（こんにちは！）

モンゴル事務所には35人のスタッフが勤務。日本人は代表と私の2人です。

支援先の小学校へ 09:00

低所得者地域の学校を訪問。研修を受けた教員が子どもたちにどう接しているか、改善すべき点はないか、教室で確認します。



12:00 羊肉の定番メニューでランチ

今日のランチは学校で羊肉の小龍包「ボーズ」。肉汁たっぷりでおいしい！モンゴルの代表的な料理の一つです。



学校体制の改善策を教員と話し合う 14:00

子ども一人ひとりの状況に合わせたケアがされるよう、学校全体で何ができるか、校長や教員と話し合います。



16:00 事務所で事務作業

19:00 帰宅

モンゴルの食事は野菜が不足しがちなので、市場で野菜を買って夕食やお弁当を作り置きしています。

寄付にご協力ください

あなたのご支援が子どもたちの今と未来を支えます。

世界と日本の子どもたちのために―。
例えば約3,000円で、難民となってヨーロッパに逃れてきた乳幼児5人に、1日分の離乳食やミルク、水を提供できます。
同封の振込用紙をご利用ください。



集めて、送って、気軽に支援

書き損じはがき、眠っていませんか？同封の封筒でお送りください。



印刷を間違えて出せなかったり、買いすぎて余ったりしてしまった年賀はがき、ついついそのままにしてしまっている方も多いのでは？未投函の官製はがきをセーブ・ザ・チルドレンにお送りいただくと、1枚45円の寄付に相当し、世界の子どもたちへの支援に役立てられます。古いはがきでも未投函であれば受け付けています。
同封の封筒でお送りください。

遺贈・相続・香典寄付のご案内

想いを遺すこと。それは、人生をつなぐこと。

「遺産の寄付を考えているのですが、受け付けていますか？」「税の控除は受けられますか」というお問い合わせをいただくことが増えています。セーブ・ザ・チルドレンは皆様からのご厚志を、教育や保健・栄養などの活動を通して、世界と日本の子どもたちに届けています。



© GMB Akash/Panos Pictures/Save the Children

セミナー参加者募集中 参加無料

知っていますか？遺言の基礎知識。
あなたの想いを未来に残すために

日時 5月18日(木) 2017年
13時30分～15時30分

場所 エッサム神田会議室
（JR・銀座線 神田駅近く）

主催 公益社団法人
セーブ・ザ・チルドレン
・ジャパン

※ 開催場所などは変更となる場合がございます。

遺贈による寄付

ご遺志が子どもたちの今と未来につながります。

相続による寄付

相続税の申告期限内にご寄付された場合、寄付分は非課税となります。

香典寄付

お香典をご寄付いただくと、御香典返しに代わるお礼状を送付します。



プランの詳細につきましては、下記までパンフレットをご請求ください。

5つの遺贈・相続寄付プラン

- 世界の子どもサポートプラン
- 海外指定プラン
- 国内指定プラン
- プレミアムプラン
- セーブ・ザ・チルドレン・ファンドプラン

セーブ・ザ・チルドレンでは、お一人おひとりの想いを世界の子どもたちに確実に届けるために5つの遺贈・相続寄付プランをご用意しています。

セミナー申込み・資料の請求は、お気軽にお申し付けください。
☎ 03-6859-0068（平日9:30~18:00） ✉ legacy@savechildren.or.jp

編集後記

デザインを一新してお届けしたニュースレター、いかがでしたでしょうか。セーブ・ザ・チルドレンはこの度、全世界でビジュアルイメージを統一し、世界中のスタッフが力を合わせて子どもたちのために活動する決意を新たにしました。赤いサークルが印象的な新デザイン、これからの発信をお楽しみに。（編集担当：高橋）

＊表紙：イラクの国内避難民キャンプの子どもたち ＊この冊子の印刷におきましては、協和オフセット印刷株式会社に多大なるご協力をいただきました。

Save the Children

セーブ・ザ・チルドレンは、日本を含む世界120ヶ国で子ども支援活動を行う、民間・非営利の国際NGOです。子どもの権利が実現された世界を目指し、約100年にわたり活動しています。

Save the Children
セーブ・ザ・チルドレン ニュースレター vol.70 2017年4月発行 発行元：公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F ご支援に関するお問い合わせ：03-6859-0068（平日9:30~18:00）